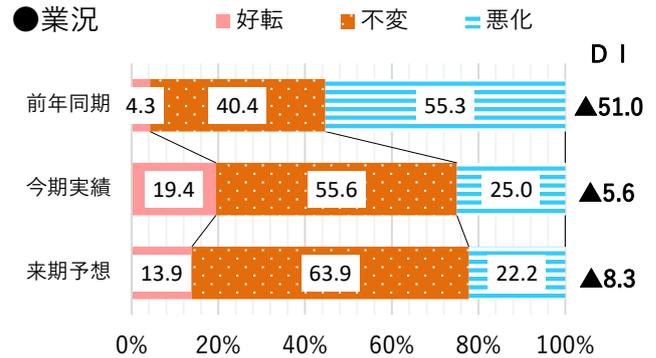


製造業

業況、売上、採算

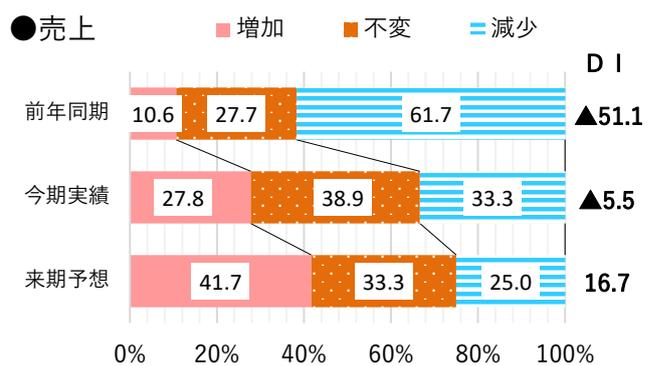
今期(2021.7~9)の業況判断DIは▲5.6で、前年同期(2020.7~9)と比べ45.4ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期(2021.10~12)は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。



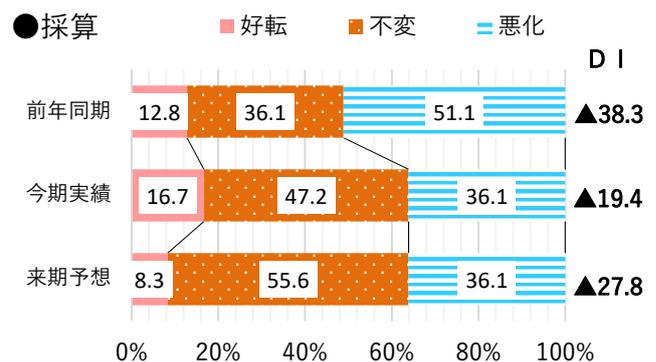
今期の売上DIは▲5.5で、前年同期と比べ45.6ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、売上がプラスに転じると予想しています。

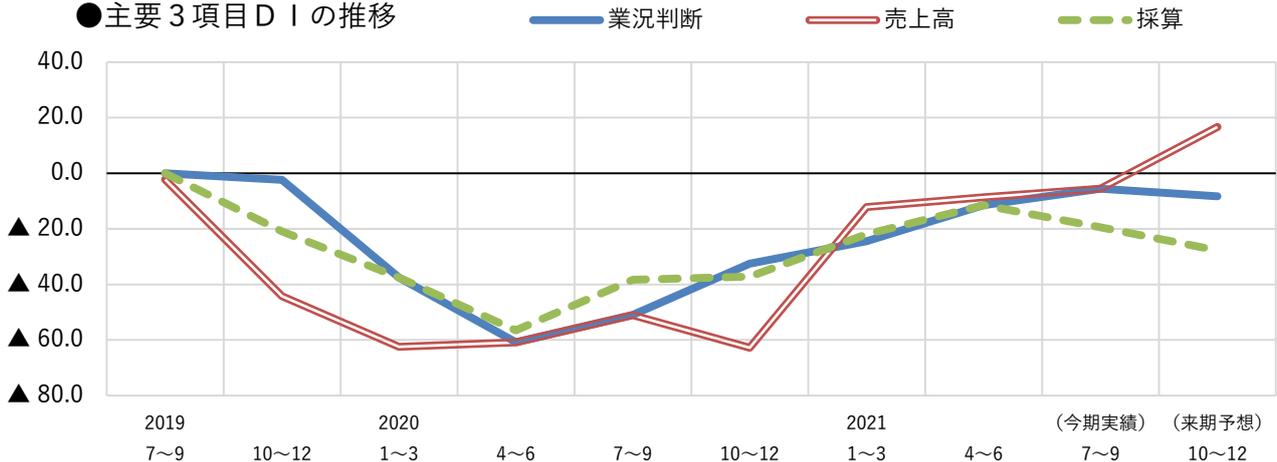


今期の採算DIは▲19.4で、前年同期と比べ18.9ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



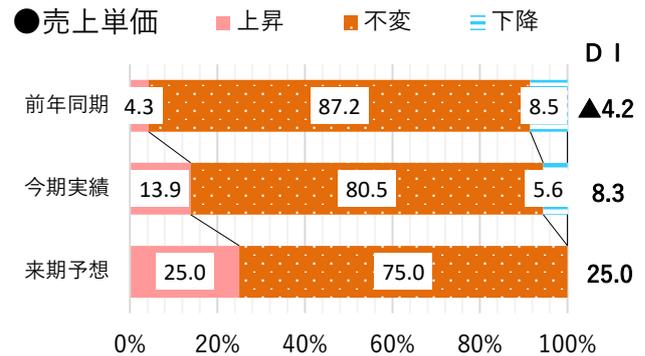
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

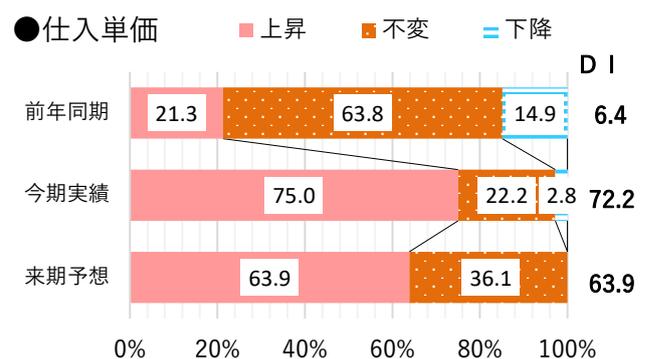
今期の売上単価DIは8.3で、前年同期と比べ12.5ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上単価の上昇傾向が強まると予想しています。



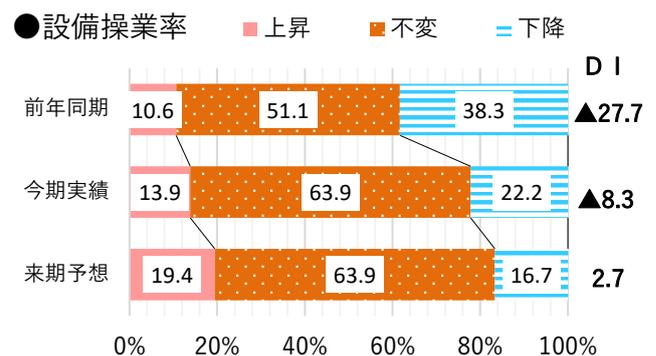
今期の仕入単価DIは72.2で、前年同期と比べ65.8ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは▲8.3で、前年同期と比べ19.4ポイント上昇しました。

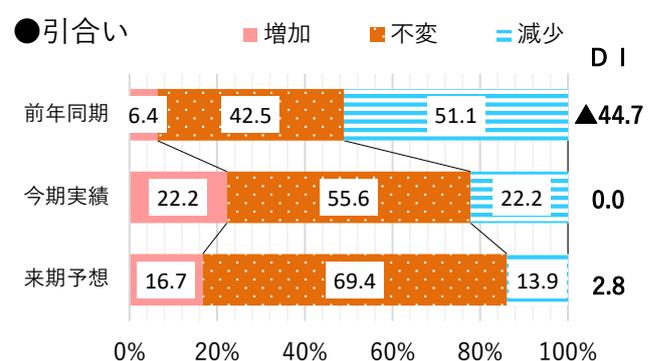
来期は、設備操業率がプラスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは0.0で、前年同期と比べ44.7ポイントと大幅に上昇しました。

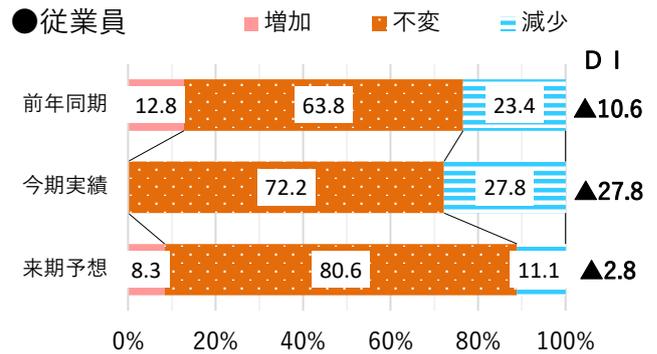
来期は、引合いがプラスに転じると予想しています。



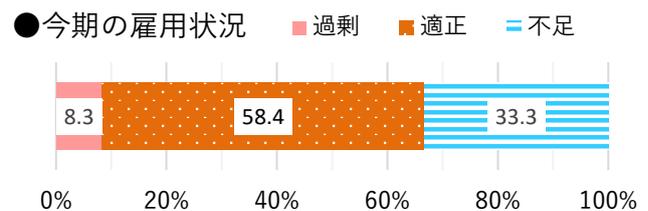
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲27.8で、前年同期と比べ17.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は8.3%、適正であると回答した企業の割合は58.4%、不足していると回答した企業の割合は33.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の50.0%を占めています。

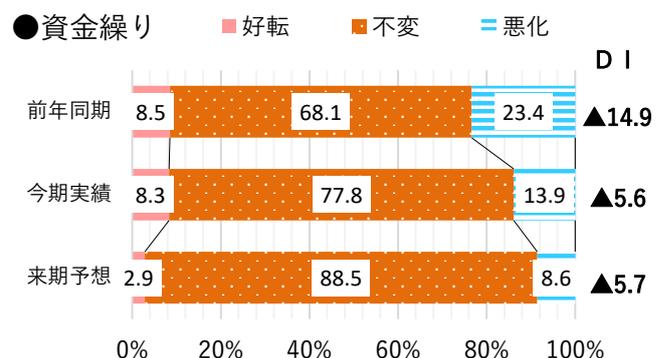
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	18
	不足	8
減少した	過剰	3
	適正	3
	不足	4

資金繰り、設備投資

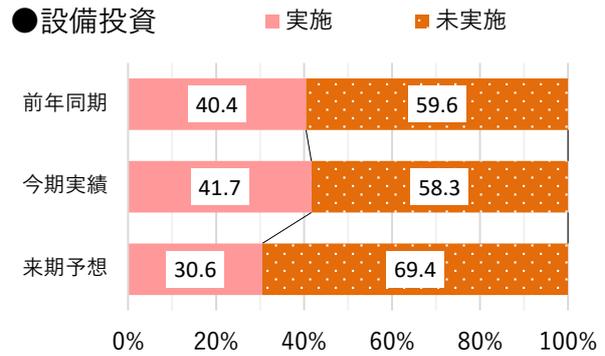
今期の資金繰りDIは▲5.6で、前年同期と比べ9.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



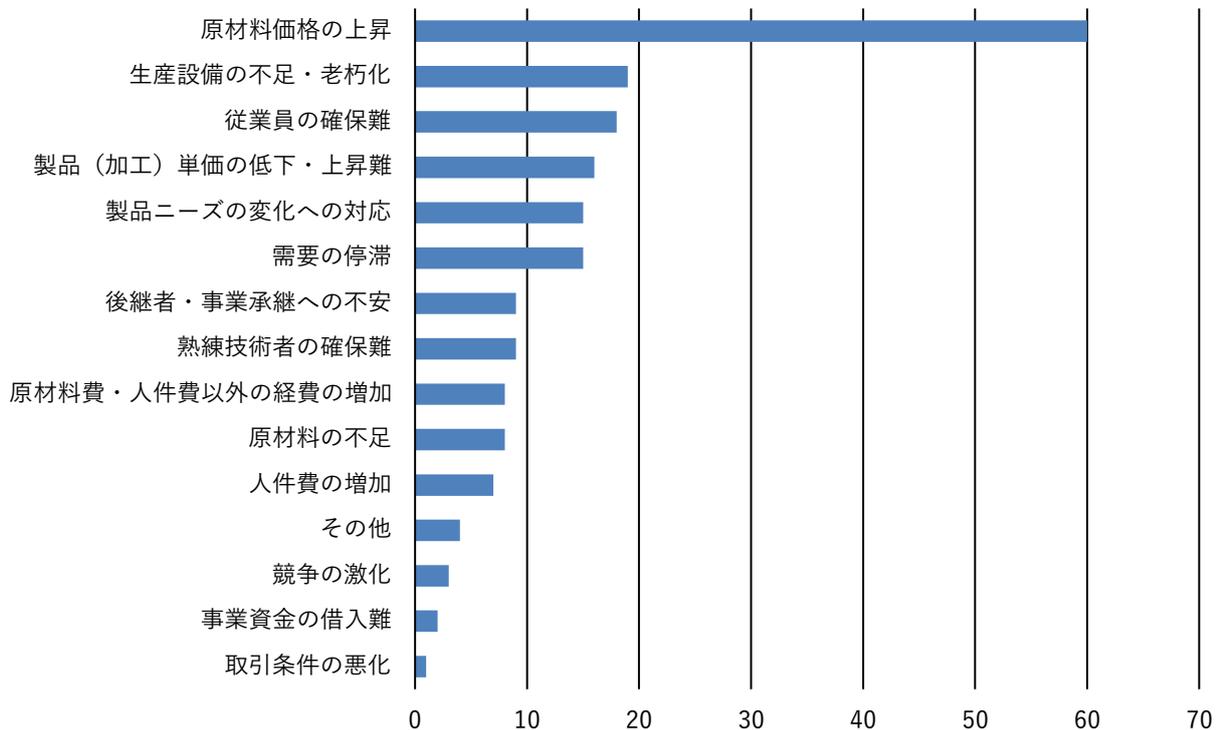
設備投資を実施した企業の割合は41.7%で、前年同期と比べ1.3%上昇しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「車両運搬具」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は30.6%で、低下を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 原材料価格の上昇よりも、原材料不足が深刻な状況にある。（金属製品）
- 人手不足のため、従業員の負担が大きくなっている。（金属製品）
- 原材料価格が高騰しており、受注が困難だった。（金属製品）
- 新型コロナウイルスへの対応に追われた。（ゴム製品）
- 売上高は前年並みだったが、コロナ禍前（一昨年）と比較すると8%以上減少した。原材料価格が上昇しているが、販売価格への転嫁は難しい。（プラスチック）
- 原材料仕入単価が上昇しているが、販売価格に転嫁できない状況にある。（プラスチック）

- 大型案件の受注は無く、小型取引の積み重ねが中心だった。（機械器具）
- コロナ禍による原材料の入荷遅れと生産効率の低下のため、業績が悪化した。（衣服）
- コロナ禍により、本来5月に到着する主力原料（カナダ、アラスカ産のニンシ、数の子）の納入が遅れ、今期に納入されたため、工場の操業度が上昇した。加工品の販売は堅調に推移している。（食料品）
- 昨年同期比の売上は増加したが、一昨年同期比では4割減少した。（食料品）
- 7月中旬以降の猛暑によって、昨年より夏物の売上が増加した。（食料品）
- 売上はまずまずだが、利益が出ない。（食料品）
- 工場作業員が不足している。（食料品）
- 巣ごもり需要に一服感が見られ、期待していたほど売上が増加しなかった。（飲料）
- 新型コロナウイルスの影響が前年度から続き、業況が悪化している。（医薬品）
- 新型コロナウイルスの影響に加え、熱海市の土石流ならびに大雨の影響で、東北地方を中心に土木関係の仕事に遅れが生じている。新規雇用で技術を伝えていきたいが、躊躇している。（その他繊維製品）

[来期の業況について]

- 今期同様、原材料の確保を意識しながらの窮屈な営業活動を強いられる。（金属製品）
- 原材料価格の高騰が続くと思われる。（金属製品）
- 従業員を募集する。（金属製品）
- 機械設備の更新により、設備操業率の上昇と売上の増加を見込む。（ゴム製品）
- 季節要因で売上は増加すると思われるが、一昨年との比較では10%程度の減少を見込む。コロナ禍によって新規の案件は少なく、原材料価格の上昇が続くため、厳しい状況が続くと思われる。利益が小さい案件は、受注価格の引き上げが受け入れられなければ、断る姿勢で臨む。（プラスチック）
- 引き続き原材料仕入単価が上昇すると思われる。公共事業の発注が前倒しになった影響で、引合いや受注残が減少すると思われる。（プラスチック）
- 製造ラインの稼働率が多少上向くと思われる。（機械器具）
- 国には、国民の7割に対するワクチン接種を年内に実施し、経済対策を進めてもらいたい。新総理の取り組みに期待する。（紙製品）
- 昨年はスーパーでミニ物産展を実施し、コロナ禍においても健闘した時期だが、今年度は受注が少なく、昨年の売上を下回る可能性がある。（食料品）
- コロナ禍の影響は分からない。主力原料の到着時期のずれ込みが影響し、工場の操業度が更に上昇すると思われる。（食料品）
- 売上の増加を見込むが、原材料費の上昇と最低賃金の引き上げで、採算が悪化すると思う。（食料品）
- 既に受注があるが、利益を残せるか不安に感じている。（食料品）
- 新商品の発売で、巻き返しを図りたい。（飲料）
- 新型コロナウイルスの勢いが弱まり、景気回復に向かってほしいと思うが、売上等の好転は限定的なものにとどまると思われる。（医薬品）
- 今期最低だった官需がどこまで回復するか、遅れている土木関係の仕事が動くかどうかで、業況は変化すると思われる。（その他繊維製品）